

岩手山の噴火警戒レベル判定基準について

岩手山の噴火警戒レベルの判定基準について、最新の科学的知見を反映する等の精査作業が完了したことから、気象庁ホームページで公表します。なお、今後も火山活動の状況や新たな知見をもとに随時見直しを図っていきます。詳細については、以下の気象庁ホームページをご参照ください。

【噴火警戒レベルの判定基準の公表方法】

気象庁ホームページの「噴火警戒レベルの判定基準」のページ（以下 URL）で公表

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/keikai/level/ki_junn.html

岩手山の噴火警戒レベルのリーフレットについて

3月20日に岩手山の噴火警戒レベルのリーフレットを更新します。最新のリーフレットについては、気象庁ホームページをご参照ください。

岩手山の噴火警戒レベルのリーフレットは、以下 URL で公表

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_207.pdf

レベル	火山活動の状況	住民の行動及び避難・火山警報の状況	想定される現象
5 (特別警戒)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	● 噴火型火山泥流または火砕流・火砕サーージが居住地域まで到達する可能性がある。 【過去事例】 1999年の噴火：東手山山頂で噴火。噴火型火山泥流が周辺に北上川まで南下。滝沢市一本木地区で火山泥流が河川に流入し居住地域へ被害を及ぼす。火砕流（火砕サーージ）は火口から山麓（約4km）まで到達。噴石は火口から山麓（約4km）まで散らばる。
4 (警戒)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性がある（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備が必要。要配慮者及び「特別に被害が予想される区域（脆弱）」の避難準備が必要。	● 噴火型火山泥流または火砕流・火砕サーージが居住地域まで到達する可能性がある。 【過去事例】 1720年の噴火：東手山山頂で噴火。北東山麓に泥岩流出（噴石と伴って）。1999年の噴火：東手山山頂で噴火。北東山麓に泥岩流出（噴石と伴って）。噴石は居住域の多量、住民避難が必要。
3 (注意)	居住地域の近くまで重大な被害を及ぼすこと（この範囲に入った場合には生命に危険が生ずる）の噴火が発生する可能性がある。	火口から居住地域近くまでの避難準備への立入規制。	● 東手山山の火口から麓約4km以内及び西手山山の火口から麓約3km以内の影響が及ぶ噴火が発生する可能性がある。 【過去事例】 1999年の噴火：4月29日、短時間で多数の噴火と連続した噴火が発生し、地盤変動が増加し地殻変動が生じた。
2 (注意)	火山周辺に影響を及ぼすこと（この範囲に入った場合には生命に危険が生ずる）の噴火が発生する可能性がある。	火山周辺への立入規制。噴石は居住域から立入規制。	● 東手山山及び西手山山の火口から麓約2km以内の影響が及ぶ噴火が発生。または予想される。 【過去事例】 1999年の噴火：西手山（大地震前）で噴火。噴石は居住域に到達。1999年の噴火：3月17日、火山性地震が増加し地殻変動が生じた。
1 (注意)	火山活動は静穏。	状況に応じて火口内への立入規制等。	● 火口内で少量の噴気や火山ガスが発生。

（3月20日に掲載するリーフレット：左=表面、右=裏面）